

No	基本目標	【業務事業】 具体的施策	今年度の取組に対する自己評価	学校関係者の評価
1	保育内容の充実	[特色を活かした保育の質の向上] 大学との連携・ICT 全体研修・個人研修の推進 幼小連携の推進	年間の保育計画から月案・週案を立て提出し、日々の評価を行う事で保育の充実を目指した。今年度は、年長組のみだったICT保育を全学年に広げ日常の保育に組み入れ子どもの育ちを研究しながら保育を実施した。全体研修では姉妹園合同研修を行い「人権研修」「ヨガ」「3園情報交換による育ちを考える研修」「若手教員の育ちについて」を行い互いに士気を高め学びを深めた。個人研修では個人の課題に沿った研修を選びそれぞれが学び、報告会で学びの共有を行った。幼小連携では年度当初に年間の計画を小学校と話し合い合計3回の交流を行った。	研修は多彩なものをするとこがよい。他の職場を見た意見交換をしたりするのはいろいろなものが吸収できるというところよい。多様なお子さんを指導するのが難しい中で大学の専門の先生と研究を通して連携しているのは大変信頼できる。ICTについては子ども達がクリエイティブにリテラシーも含めて広がっていき保護者も自ら子ども達からの学びが得られるとよい。
2		[園の特色を生かした教育課程の充実] 学年会議の開催 次年度カリキュラムの決定	毎週1回学年会議を行い、前週の評価・次週の計画について話し合い保育計画を立てた。学期末毎に教育課程の見直しをし、訂正・加筆を加え現在の園児の姿に沿ったものに作りなおしていった。年度末には次年度カリキュラムを決定する為に1年分の教育課程の見直しを行う。見直しの後は次年度のために教育課程全体を書き直し新年度を迎える。	季節や時事に合わせて柔軟に対応してくれているのが子どもの様子からうかがえる。子ども達はやらされているのではなく楽しみながら取り組む様子がうかがえる。先生同士の協力や共有がなされている様子がうかがえる。
3	大学・地域との連携	[学園内設置校との連携の充実] 体操教室・リトミックの実施 学生との連携の実施 大学教員とのコラボ研究の実施	体操教室・リトミックは毎週1回行った。学生との連携としては、女子大からボランティアやバイトを雇い日々の保育の手助けとし、また行事の手助けとなった。さらに学生側としては学びにもなった。コラボ研究では「特別に支援を要する子どもに対する援助法」をキーワードに専門の大学教員と共に研究を進め論文にまとめた。論文は女子大の紀要に提出予定。オープンキャンパスでは子ども達が盆踊りを披露し、夏祭りを楽しむ姿を見てもらい、附属大学への入学志願者へのアピールになり、子ども達は夏祭りを楽しんだ。学園祭でもマーチングを披露し、たくさんの学生に観てもらい附属幼稚園としてのアピールをした。	学生さんがクラスに入ったことを子どもが自宅に帰って話す様子から慕っていることがわかる。学生さんも勉強で来ているのだと思うが子どもによく向き合ってくれているのがわかる。
4		[地域との交流の推進] 田植え・稲刈り・餅つきの実施 折尾まちづくり記念館との職員交流 八幡図書館折尾分館との交流 地域内小規模園・姉妹園との交流 地域のデイ・ケアとの交流	地域の方のご協力を得て田植え・稲刈り体験を行うことでその後おにぎりパーティーで食育にもなった。また、ハロウィンには地域の老人施設から仮装をした高齢者の方々が訪問してくださり子ども達と交流を行った。餅つきでは園児の祖父母や保護者の会のお手伝いを頂き日本の文化を体験した。八幡図書館折尾分館からは、未就園児教室に向かいてもらい絵本の読み聞かせをもらった。季節に沿った絵本を選んでもらい、未就園児教室に絵本の楽しさを伝えてもらった。地域内小規模保育園との連携では小規模保育園が幼稚園に訪問し、幼稚園の体験をした。さらに姉妹園交流として互いの園を訪問し、園児同士で交流をした。3月にはzoomを使った交流を予定している。折尾まちづくり記念館には職員を派遣し、季節の製作などを地域の方々と一緒に楽しんだ。	田植えや姉妹園などの交流を通して社会性や豊かな感性を育てるのが感じられた。また来年度も図書館として未就園児教室での連携をさせていただきたい。
5	幼稚園	[園児募集・広報の強化] H Pでの積極的な情報発信 未就園児教室の充実 預かり保育・子育て相談の実施	H Pは月に一度の更新を目指し幼稚園の様子を発信してきた。在園児保護者にはInstagramを使用して日々の保育の様子を発信した。年長組にはお泊り保育の様子はYouTubeを使って発信した。未就園児教室は、幼稚園の様子を毎月のお便りに写真入りで載せてお知らせし、内容は昨年度の反省から見直し、より充実した物になるよう努力した。また、入園を控え様々な心配事や子どもの発達についての相談を常に受けて来た。在園児の保護者からの子育て相談も常に受け特に要支援児については、都度保護者からの聞き取りをしながら個別に保護者との関係構築を行い専門機関へとつないでいった。さらに、大学の専門教員との面談を行い保護者のメンタルケアを行った。	H PやInstagramで子ども達の様子をよく発信している姿がみられた。広報としてはSNSを使うところで継続していかなくては意味がないと思う反面先生達の負担が大きいのではないかと思われる。先生達の健全な心身は子ども達に反映されるため気遣って欲しい。
6	運営の強化	[安全対策の徹底] 運転員の研修の実施 園児の交通安全教室・避難訓練の実施 戸外活動・災害時の安全対策 遊具の点検・建物の点検 職員に対する危機管理の研修	園児の火災や地震を想定した避難訓練や、不審者対策での防犯訓練を定期的に行った。年長組は小学校登校を見据えドライビングスクールでの交通安全教室を行った。小さい組に関しては防犯訓練と一緒に折尾警察署交通課の方からの交通安全教室を行った。戸外活動では常に安全に気を付けながら何度も人数確認を行いながら取り組んだ。建物の点検は常に行い、不具合があるところがあれば管財施設課を通して業者に点検・修理をもらった。職員に対しての危機管理研修は、他の幼稚園・保育園の危険な事故等を我が身に置き換えた研修をその都度行った。運転員の研修についてはドライビングスクールで実技・講習共に丸一日かけて行った。バスの置き去り防止については、運転員と添乗職員との2重チェックと置き去り防止装置を使って気を付けて来た。	戸外に出かける時には様々な事件を念頭に安全第一で子ども達を見守って欲しい。危機管理研修を通して先生達の意識を見直し、いつでも子ども達を安全に保育して欲しい。